

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

2017年12月1日  
(No. 88)

2017  
\*  
12月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (16)

## 村山貯水池 (多摩湖)

東西に長い狭山丘陵の内側には、これを南北に分ける尾根があり、埼玉県と東京都の境界にもなっています。埼玉県側の所沢市にあるのが、柳瀬川をせき止め1934(昭和9)年に竣工した山口貯水池(狭山湖)。東京都側の東大和市にあるのが、宅部川(やけべがわ、現在の北川)をせき止めた村山貯水池(多摩湖)。どちらも多摩川の羽村取水堰(玉川上水)・小作取水堰から引き込んだ水を貯め、東村山浄水場等へ送っています。村山貯水池は1924(大正13)年竣工の上貯水池、1927(昭和2)年竣工の下流側の2つの貯水池に分かれますが、写真は上貯水池の堰堤(左側)付近です。(天田 眞)

9月24日(日)カヤネズミ原っぱ環境応援作戦2017

## 志木カヤネズミの巣をさがそう!

埼玉県準絶滅危惧種カヤネズミが生息する、いろは親水公園ヨシ・オギ保全地区において、今年も「カヤネズミの巣をさがそう!」を開催しました。

定員50名のところ、参加者63名(28家族、大人・保護者29、小学生32、未就学児2)、スタッフ10名(他に事前作業1名)が集いました。

私はあまり協力できませんでしたが、定期的なおオブタクサ除去作業に加え、カヤ原の中の迷路、お宝カード、お宝カード釣り用の釣り竿づくりと、スタッフによる事前準備も万端整い、今年は雨が多いのであとはお天気だけが心配でしたが、見事快晴。充実した会となりました。

本部に設置したミニ水族館はいつも人気で、身近な川で捕れた魚たちに大人も子どもも興味津々です。紙芝居でカヤネズミのお話を聞き、会場に設けられた「昆虫採集」「カヤ原迷路」「お宝カード釣り」の3つのイベントコーナーを3つのグループに分かれて順に巡ります。

私は迷路を担当しました。背丈以上あるヨシやオギの中の迷路は子どもたちの冒険心をくすぐります。お宝カード探し、おオブタクサ抜き体験、そしてカヤネズミの巣探し・・・が、なんと、なんと!最初のグループの子がカヤネズミの巣を発見しました。昨年大雨でカヤ原が水没して以来、巣は見つかっていませんでした。もう帰ってこないのかと諦めかけていたところの大発見です!カヤネズミは生き延びていたのです!

カヤ原を守ろうと、外来種おオブタクサ抜き体験にも例年以上に子どもたちの熱意が感じられました。

昨年までの矢投げに代わっての「お宝カード釣り」コーナーでは、先端に磁石を付けた手作り釣り竿でお宝カード釣りに挑戦しました。

新河岸川寄りの堤防の上は、昆虫採集コーナー。昆虫を追っかけ、説明を聞いて、捕まえた昆虫を大事そうに虫かごに入れていました。

最後にマシュマロバーベキューで楽しみながら流れ解散となりました。

皆さん、ときどきカヤネズミ原っぱに遊びに来てくださいね。そして、来年もまたお会いしましょう!



巣

[写真: 青木明雄]

カヤネズミの巣と発見者

さて、その後のカヤネズミ原っぱですが、連日の雨に続き、10月22日から23日にかけて襲来した台風21号は更に激しい雨をもたらし、いろは親水公園

にも水が溜まり、カヤネズミ原っぱは昨年に続き、またもや完全に水没してしまいました。カヤネズミは大丈夫でしょうか?

秋晴れの11月2日、カヤネズミ原っぱを再訪してみました。オギやヨシは元気に復元し、銀色の穂を輝かせていました。が、カヤネズミの巣は見つかりません。頻繁に水没を繰り返す環境に暮らすカヤネズミのこと、うまく生き延びてくれることを願うばかりです。また、来年も会うことができるでしょうか? (毛利将範)



10月23日 [写真: 青木]



11月2日のカヤ原

## 柳瀬川のあらし (3)

### 柳瀬川回廊 (清瀬橋～清流橋)

空堀川との合流点の下流に架かる橋は清瀬橋で、ここを境に柳瀬川の様子はがらりと変わります。上流は川沿いに歩ける道は殆どありませんが、ここから下流の金山調節池までは、この20年ほどで基本的な整備が終わり、志木まで川に沿って歩くことができます。

清瀬橋から、ずっと下流の「下宿ビオトープ公園」のある清柳橋までは、清瀬市が推薦する、水と緑の回遊空間「柳瀬川回廊」。空堀川に沿った梅坂橋から清瀬橋までの空堀川エリアも含め、川・調節池・崖線緑地・ビオトープ等の自然に触れ合いながら回遊できる心地よい散策コースです。

清瀬橋から金山緑地公園の手前までは新しくできた複断面の河道（普段水の流れる低水路と一段上がった高水敷がある川）。低水路護岸には石を並べ、間に植物が生えるのはいいのですが、大変大きな石で違和感があります。又、2か所に落差工があり魚が上るのは困難。

歩行者用の松柳橋左岸に高さ20m程にそびえる崖は柳瀬川で最大の崖。かつてはローム層や礫層が露出して「アカバツケ」と呼ばれ、地層の構造を見ることができたそうですが、古多摩川でもある柳瀬川が武蔵野台地を浸食した段丘崖です。

### 金山緑地公園付近

金山緑地公園付近の改修工事（金山橋上流側）では、右岸の急傾斜の崖線河畔林と左岸の金山緑地公園の縁にある河畔林に挟まれ、河川幅の拡幅が困難な状況の中、東京都による、河畔林を撤去し公園を縮小し複断面の川をつくる計画に対し、柳瀬川流域ネットワーク（エコシティ志木も参加）を中心とした市民が粘り強く取り組みました。その結果、川を単断面とし河畔林と崖線緑地を護り、洪水時には公園を一時貯留施設とするといった、治水と自然のバランスのとれた改修案に決まりました。既に竣工から15年程経過し、公園と一体化した川の景観は素晴らしく、柳瀬川では最も水質の良いところでもあり、夏には子どもたちの水遊びの場になっています。

### 金山調節池付近

竣工から既に20年を越えた金山調節池は調節池であるとともに湧水池でもあり、湿地の生態系がよみがえり、多くの野鳥の飛来地になっています。金山調節池からのきれいな水が柳瀬川に注ぎ込んでいるあたりは、上流の空堀川合流点に至る一連の改修で一番初めに工事されたところで、真夏には子どもたちの水遊び風景が見られます。

(天田 眞)



1. 清瀬橋から下流方向



2. 左岸のアカバツケを下流から見る



3. 金山緑地公園の河畔林

9月18日（月・祝）志木の自然観察（秋）

## 河原と田んぼの秋を訪ねる

9月18日、秋日和というには暑すぎる中、13名で柳瀬川右岸左岸と水谷田んぼを歩きました。

堤防には秋の三大アレルギー源であるヨモギ、カナムグラ、オオブタクサが繁茂し、多くの花と鋭い刺のある金平糖形の実をつけたアレチウリがはびこっています。そんな中、左岸ではイタチが道脇の藪の中に消える迄わずか数秒間目撃し、また、ケーンというキジの鳴声、ルルルルーと優しく鳴くカンタンを教えました。

アシヤガマの生い茂る耕作放棄地の脇を通り一面稲穂の水谷田んぼへ。紫のコナギの花が目を引きまします。新河岸川に注ぐ中央の水路に水が音を立てて流れこみ、神社の茅の輪になるというマコモが青々と茂っています。よくカワセミの見られる場所とのこと。遠くに富士山がくっきりと見え、身近にこのような自然の宝庫があることは驚きです。



[写真：青木明雄]

今回、桜の木等に発生する毛虫、モンクロシヤチホコが無毒であること、土の中で蛹になるためにこの時期に樹上から降りて来ることを知りました。また、ジャコウアゲハの食草であるウマノズクサの小群落を観察。なんと、大小数匹の幼虫を確認できました。

（庭野 恵子）

## 柳瀬川の美化活動

毎月1回ですが、志木中学校前の柳瀬川でゴミ拾いを行っています。

9月9日（土）、10月9日（月・祝）、11月19日（日）に行いました。10月と11月は柳瀬川水族館の前に行いました。時間は、9時から9時半の30分間です。

今年も台風による増水で、土手の上の方まで水位があがり、沢山のゴミが上流から流れ着きました。柳瀬川は、上流からの高低差がかなりあることから、比較的流れの速い川です。この流れに乗ってごみは流れてきます。これらのゴミは、川に生えている木などに引っかかり、水の流れで引きちぎられていることが多くあります。私たちの行っている対岸の木々にも沢山のゴミが引っかかっています。通常の流れの時には、岸辺の草や河原の草などに引っかかっています。また、河原にも沢山のゴミが溜まっています。ゴミの多くは、レジ袋やお菓子などの袋類です。いわゆるビニールやプラごみ類です。また飲物の空き缶やペットボ



トルも多く落ちています。これらのゴミは、みんながもっと気を付ければ減るゴミだと思います。河川敷も良く利用され、バーベキューやお弁当などを楽しむ人が多くなりました。みんなで気を付けたいと思います。（青木明雄）

## 志木市内生き物調査（荒川堤外、柳瀬川水族館）

昨年度まで行っていた柳瀬川ウォッチングに代えて、柳瀬川だけではなく、市内全域での生き物について調査しようということで始めた事業です。

9月16日(土)は、荒川堤外の調査を行いました。総合運動場の裏には、他ではあまり見かけないムカゴがありました。食べてみましたが、そのままでは、あまり味がありません。田んぼの隅には、クサネムがあちこちに生えていました。

また、中央公園近くの道路脇で、センナリホウズキを見つけました。珍しいと思っていたら、パークゴルフ場の脇の狭い道に至るまで、沢山見ることができました。江戸時代までは、ホウズキ市では、このセンナリホウズキが売られていたそうです。すごく甘く、ココナッツのような味がするようです。市内では、この荒川でしか見かけたことがありません。最近、熟した実を食べてみましたが、言われているほどの甘さは感じませんでした。

10月9日(月・祝)と11月19日(日)は、



柳瀬川水族館を行いました。

最近、ギギが良く捕れていたのですが、この日はなぜかとれませんでした。10月には、会員のお子さんも魚捕りに参加してくれました。

(青木明雄)

## 侵略的外来生物県民参加モニタリング調査に参加して

**9月4日:**袋橋近くの新河岸川旧河川と水谷東1丁目、及び新河岸川左岸の浦和バイパスと南畑大排水に囲まれた三角地帯の2区画。

サプライズは、細い流れの旧河川で飛翔するカワセミでした。

**9月11日:**宗岡二小周辺と荒川堤外。

珍しい狛猿の浅間神社からスタート。羽根倉児童公園ではアカボシゴマダラを間近で観察。

**11月13日:**新座団地の南、大和田地区。

氷川神社では食べられるドングリ、スダジイや、甘い香りのムクの実があちこちに。最初の調査対象はハゼランでした。オニノゲシとノゲシが並んで咲き、アメリカフウロ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリの小さな葉が育ち始め、ハルジオン、ヒメジョオンは既にロゼット状に。花も実も無い状態での見分けは高難度でした。

**11月20日:**秋ヶ瀬取水堰付近。チガヤの草紅葉に感動。堤防ののり面には早くも菜の花(セ



11月13日ハゼラン [写真:青木明雄]

イヨウアブラナ)が咲き、春気分。

6月から全8区画の調査に参加し、126種の調査対象植物種の姿や名前にも大分馴染んだはずですが、複数の類似種や在来種の存在、それらの見分けの困難なことに遅ればせながら気づきました。記憶力総動員です。(庭野 恵子)

# あきはね通り周辺の自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



産財氷川神社

上宗岡5丁目交差点の大仙寺から荒川土手へと通じる「蓮田通り」と、いろは橋から秋ヶ瀬橋に通じる「いろは通り」との間には、3つの名前の付いた通りがあります。荒川に沿うような形の「あきはね通り」、新河岸川に近いところの「宿通り」、この2つの通りの間にある「せせらぎの小径」の3本です。今回は、「あきはね通り」を中心として、西側の「せせらぎの小径」との間にある通りと、荒川土手の間の自然や緑地を訪ねます。

上宗岡四丁目交差点から荒川の土手を左手に見ながら「いろは通り」に向かって散策していきます。200m程行くと、秋ヶ瀬スポーツセンター入口の交差点があります。交差点の少し手前には、NTT東日本志木総合グラウンドのクラブハウスがあり、堤外にあるグラウンドの活動拠点となっています。今は、大宮アルディージャが利用しています。土手に登ってみると、クラブハウスの右隣には、大きな農家があり、高い屋敷林で囲まれています。秋ヶ瀬スポーツセンター入口交差点少

し手前の右側道路沿いには、大きな田んぼが残っています。交差点の先を、50m程行った道路左に面したところにも、同じくらいの広さの田んぼがあります。「あきはね通り」に面している比較的大きな田んぼとしては、この2つが目立ちます。手前の田んぼの横を右に入っていくと、同じような広さの田んぼをいくつか見ることができます。周辺には新しい住宅が沢山建ち、宅地化が進んでいます。

秋ヶ瀬スポーツセンターから「あきはね通り」を渡っていくと右手に宗岡第二市民農園があり、田んぼと隣接しています。いろいろな野菜が植えられ、貴重な緑地ともなっています。

更に進むと、「あきはね通り」と平行して走っている道路にぶつかります。名前はついていませんが、良く利用されている通りです。ここは、五反田の交差点です。いかにも田んぼの多かった場所の名前です。この交差点を左に曲がり、「いろは通り」方向に240m程行くと、宗銀商店街前交差点になります。



屋敷林



あきはね通りの田んぼ



宗銀商店街前交差点近くの農家



大日堂と周辺の農家

この交差点の左手前には、足立みどり幼稚園があります。五反田の交差点から足立みどり幼稚園までの間は、広い田んぼや畑になっています。敷地の隅にある農家は、屋敷林と生垣で囲われています。幼稚園の隣の田んぼは、幼稚園児の遊び場となっていました。

宗銀商店街前交差点を、更に先に進むと、大きな農家がもう一軒あります。交差点から僅か70m程先です。道路脇の屋敷林の中には、水塚があり、真っ白い漆喰の蔵が目を引きまします。屋敷林の外側には、生垣が施され、緑に囲まれています。

この先の角から「あきはね通り」との間には、広い田んぼと畑が広がっています。再び「あきはね通り」に戻り、「いろは通り」に向けてしばらく行くと、左手の荒川土手脇に、産財氷川神社があります。中ノ氷川神社とも呼ばれています。秋ヶ瀬スポーツセンター入口の交差点からは600m程です。更に500m程進むと、少し細い道が斜め左に分かれています。この分岐点の先を右に入ってくると、防火協力農地と表示された広い田んぼと畑があります。「いろは通り」の本屋の裏側にあたります。分岐点を過ぎて250m程行くと、いろは通りとぶつかる中宗岡3丁目の交差点になります。

交差点手前の左は、数年前まで牧場だったところですが、宗岡第四市民農園になっていました。分岐点から、斜め左に入ったところから、秋ヶ瀬橋までの土手といろは通りに囲まれた地域には、まだまだ広い田んぼが残っているところです。最近では、少しずつ新しい住宅が建ち、

宅地化が進んでいます。秋ヶ瀬取水堰からの朝霞水路の道路に面した田んぼは特に広く、春、水田に水が張られると、農家は、水に浮かんでいるように見えます。屋敷の隅の田んぼに面したところに、水塚があります。立派な屋敷林の緑と広い田んぼは、鳥たちにとってもやさしい環境となっているように思います。

荒川堤外とも土手を挟んで、緑地が繋がっています。この田んぼの土手の近くに小さな稲荷社がありました。まるで、田んぼと農家を見守っているようです。更に道を進むと、大日堂にぶつかります。大日堂の周辺にもまだまだ田んぼが広がっていて、いろは通りにまで接しています。農家も多く、屋敷林もまだ残っています。大日堂にぶつかった所から左に進んで行くあたりにも農地が点々とあります。更に少し行くと水資源機構があります。この通りの左側は、最近の開発で、新しい住宅が並んでいます。ここに新田児童遊園地があります。今回見てきた地区で唯一の公園です。以前、何回か訪れたときには、あまり子供たちを見かけませんでしたが、久しぶりに行ってみると、母親達に守られて子供たちが遊んでいました。この公園の中は、草地の様に草が生えていて、高い木もあります。宅地が広がる中で、貴重な自然の一つになっていくことと思います。



朝霞水路脇農家と田んぼ



新田児童遊園地

## 柳瀬川で行っている小学校の総合学習

当会では市内小学校からの依頼を受け、柳瀬川で総合学習の授業を行っています。この秋には志木三小の3年生、志木四小の5年生、宗岡三小の5年生の授業を行いました。場所は志木中前で、川に入り手網で魚捕りをしますが、体験がない生徒が多く人気があります。柳瀬川の水際の護岸は基本はコンクリートですが、この上に土砂が溜まり水際に草が生えているところで、ハゼの仲間や外来種のエビなどがよく捕れます。捕った生き物は種類を同定して、一種毎に説明します。

併せて川や水の循環や河川敷の自然や外来生物の話をしていきます。自然の少ない志木にとって河川敷は貴重な場であり、水は人間にとってなくてはならないもの。

雨が降り、地中にしみ込み、湧き出し川となる。狭山湖下から流れ出す小さな柳瀬川は各地で水を集め大きくなり、新河岸川になり隅田川になり東



京湾へ。しかし柳瀬川の水の半分以上は下水処理場の排水。では、志木の市民が汚した水はどこで綺麗にしているのか。下水処理場ができる前は水質が最悪だったが、いまは水質がよくなり生き物が戻ってきたこと。外来種や海からやってくる生き物のこと。洪水のこと。等々、川ではいろいろなことが学べます。  
(天田 眞)

## 地域のイベントに参加しました

### 第5回 わっか祭 ～人の輪・知恵の話・心の和～ 【9/30(土) 館近隣公園】

東上線沿線地域協議会(生活クラブ)主催のイベントです。「柳瀬川水族館」の他に目玉として市内の昆虫や魚類等のミニカードで「つりコーナー」を設け、子どもたちに楽しんでいただきました。

### 第9回 つむじいちよう 辻銀杏で街あわせ

【10/7(土) 志木ニュータウンペアも～商店街】

地域の活性化や連携を計る「たてのよこいと」の住民グループによる商店街の空き店舗を利用したイベントに今年も参加しました。子ども縁日や手づくり品販売等、子どもから大人まで楽しめます。当会も昆虫の抜け殻の標本を例年より増加しての出展で、親子連れで賑わいました。

### 第15回 いろはふれあい祭り

【10/13(金)～15(日) いろは遊学観等】

初日のオープニング終了後、志木小学校の児童達が授業の一環として展示コーナーの見学しま



10/7 辻銀杏で街あわせ [写真: 天田眞]

す。当会も毎年、柳瀬川で捕れた魚類等のミニ水族館、市内で見つけた昆虫抜け殻などの標本、ジャコウアゲハやツマグロヒョウモンなどの幼虫やさなぎ、そして活動パネルなどを展示しました。「怖い!」「トゲ、痛くない?」とか言いながらも幼虫を手の平に乗せ、興味深く動きを観察する子どもたち。そんな子どもたちが例年より増加しているように感じられました。悪天候の3日間でしたが、当会のコーナーは、子どもも大人にも人気があり、見学者が途切れなく訪れました。

(山口美智江)

# ● 志木 自然インフォメーション ●

生き物情報は→ ファクス 048-471-4275 e-mail : qwj11624 @ nifty.com (毛利) へ  
ホームページ「発見!! 街の自然」<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

- ① **オオミズアオ**(1) → 8月 17日(木) 志木の杜で[小倉禊子]
- ② **ハクビシン**(1) → 9月 10日(日) 夜 11:30 柏町 1-8 道路の真ん中、近づく宅地に逃げ込む[天田いづみ]
- ③ **オニフスベ**(ホコリタケ科のきのこ・直径 22cm) → 9月 14日(木) 市場ふれあいの森で志木小エコクラブ活動中[天田眞]
- ④ **イタチ**(1) → 9月 18日(月) 柳瀬川富士見橋下流左岸土手で[庭野恵子]
- ⑤ **アオダイショウ**(1) → 9月 19日(火) いろは親水公園さくらのこみちで[青木明雄]
- ⑥ **オオクワガタ**(1)→ 9月 19日(火) いろは親水公園ヨシ・オギ保全地[青木明雄]
- ⑦ **キジバト**(雛) → 11月 16日(木) 西原第三公園 数日前に親鳥の営巣を確認[天田眞]
- ⑧ **ハヤブサ**(1) → 11月 17日(金) 幸町 1丁目東京電力の鉄塔。かなり大きな獲物(ハトか?)を掴んだハヤブサがカラスからつかみ合いのような激しい攻撃を受け、警戒音を発しつつ飛び去った[毛利将範]



① オオミズアオ [小倉禊子]



③ オニフスベ [天田眞]



⑤ アオダイショウ [青木明雄]



⑥ オオクワガタ [青木明雄]



⑦ キジバト [天田眞]

## 環境 ひとくちメモ (46) 伊藤 智明

### 「水質異常を発見した場合」

この11月に古綾瀬川で塩化銅溶液の流出による魚への死事故が発生しましたが、埼玉県内では河川や水路に油や着色水、有害物質などが流れたり、魚がへい死する異常水質事故が毎年度200件以上発生しているそうです。

異常水質事故が発生すると、水道水や農業用取水などに大きな影響を及ぼすことがあるので、発見した場合は直ちに環境管理事務所又は市役所まで、① 異常が起こった又は発見した日時、② 地番や目印となる建物等、③ 魚が死んでいる、油が流れている、川が赤く着色しているなどの状況、④ 差し支えない範囲で連絡先(追加調査や調査報告のため連絡する場合があります)等の連絡をしてください。

また、ペンキ・油・農薬・洗剤を道路側溝等

に捨てる  
と、河川  
へ流れ出  
て異常水

質事故になる場合があるので、不要になったものは適正に処理してください。

なお、魚のへい死には、急激な温度上昇等による水中の酸素不足、水位の低下、瀬切れなどが原因となる場合もあります。

その他、土壌に広く存在する「鉄バクテリア」は、油膜状物質(被膜)や赤褐色の沈殿物を生成しますが、無害で異常水質事故ではありません。油は枝などでつついたときに直ちに復元しますが、被膜は破れたまま復元しません。また、油の臭いがないのも特徴です。



魚のへい死

画像出典：埼玉県ホームページ「異常水質事故」<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0505/jiko.html>

## ☆会員状況

2017年度更新済み(11月26日現在)

正会員(個人) 45(内、新入会1)

正会員(団体) 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2017年度の継続更新、まだの方はよろしくお願ひします。



### ■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

### ■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

### ■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

志木市放課後子ども教室りんくす

志木市立教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！  
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

『いきもの図鑑』作業状況

## 第二校は翌年度のお楽しみ

8月には、図鑑の冒頭に掲載する志木市の自然環境の説明とBチーム(野草他)及びCチーム(鳥類・魚類他)の初校版ができあがり、プロジェクトメンバーに、印刷・配布しました。まだ部分ではありますが、図鑑としての印刷イメージを、確認することができました。

内容については、担当チームにてチェックを行っています。全体としての作業手順としては、残っているAチーム担当分(主に樹木と昆虫)の初稿データ確定を優先して進めています。終了後に、印刷済の初校版(野草・鳥類・チョウ・トンボ・魚類、水辺の生き物他)の内容確認(初稿データ通りになっているか)を行い、違っている部分の訂正を行います。また、記載内容についての見直しを行い、変更内容を確定し、2校版への変更内容としてまとめていくこととなります。編集作業の負担上Aチームの初稿データの確定分とBチーム及びCチームの初校版訂正・見直し内容確定分がそろってから、全体の編集に取り掛かる事となりました。編集作業には、2カ月くらいを要するため、二校(樹木・昆虫等は初校)版が出来上がってくるのは、翌年度になることと思います。11月には、昆虫関係のページ割り当ても整理が終わり、順調に進む中、新たに2人のメンバーがレビューに参加しています。全体の姿が見える形になるのを楽しみに進めたいと思います。(青木明雄)



シヤクガとは、いわゆる尺取虫の仲間の蛾のことで、シヤクガ科に分類されます。「…シヤク」と種名の最後にシヤクが付きます。幼虫は細長いイモムシ形で、その歩き方が、人が指で寸法をとるような動きをすることから名づけられています。また、木の枝から斜め真っ直ぐに体を突き出し、小枝に擬態することもあります。

昆虫の脚は3対ですが、ガの幼虫のイモムシやケムシでは、この本来の脚は体の前部にまとまってあり、体の中央部には4対の腹脚が、また、最後尾には1対の尾脚があります。しかしシヤクガの場合は、その歩き方に合わせ、中央の腹脚が後方の1対だけを残して退化しています。

ウメエダシヤクの幼虫は小柄で細長く、黒地に橙色の柄でサクラ類を食べます。成虫は墨で描いたような独特な美しい模様で、昼間

にひらひらと飛びます。ユウマダラエダシヤクの幼虫はウメエダシヤクに似ていますがマサキを食べます。成虫は鳥の糞のようですがきれいな模様で、これも昼にひらひらと飛びます。シヤクガの仲間はきれいな模様が多いです。

ニトベエダシヤクは他の昆虫が見られなくなる11月下旬ころに羽化し、卵で越冬し、春に白っぽくすべすべした肌の幼虫が活動します。夏は土の中で蛹で過ごします。

チョウやガの仲間は、卵・幼虫・蛹・成虫と様々な態勢で越冬しますが、成虫の場合も風の当たらないような茂みで静かに越冬します。これに対しフユシヤクの仲間は真冬に羽化し、生殖行動を行い産卵します。この仲間の雌は翅が退化していて飛ぶことができません。幼虫・蛹の時期はニトベエダシヤクと同じです。



ウメエダシヤク



ウメエダシヤクの幼虫



ユウマダラエダシヤク



シロツバメエダシヤク



ベニスジヒメシヤク



ニトベエダシヤク



ニトベエダシヤクの幼虫



シロオビフユシヤクの雄



フユシヤクの仲間の雌

# 小笠原の旅

宇津木 美恵子



## その6 海-ドルフィンスイム

小笠原で一番の感動の出来事は、海にありました。

まずはドルフィンスイム。

小笠原近海には2種類のイルカがいます。ミナミハンドウイルカとハシナガイルカです。よく、水族館で芸をして楽しませてくれるのがミナミハンドウイルカです。とてもフレンドリーで、一緒に泳いでくれます。

船のツアーに参加。船長はイルカの群れを探しながら近海を航行します。

イルカの群れを見つけると、群れの進行方向を見極め、船を動かします。OKのサインが出たら、私たちはシュノーケルとマスク、足ひれを付けて一斉に船から海に飛び込み、イルカの大群の中で泳ぎます。初心者の私は、まずはライフジャケットに身を固め、水面付近から自分の下を通過するイルカの群れを見守ります。チーチーというイルカの声が聞こえて感動。野生のイルカが今すぐそこにいる!!! そう思うだけで、心は大パニックでした。

ちょっと慣れてくるとカメラを構えイルカの動きを細かく観察。イルカの群れを追って必死で泳ぎました。水中であくびするようなしぐさをしているイルカ、親にピッタリ寄り添って泳ぐ子供のイルカ、こちらに向かって鼻先を近寄せてくるイ

ルカ。思わず手を振りたくなったものです。

手を出すのはタブー。一つの群れにアプローチできるのは一隻5回までといろいろなルールがあり、イルカの生活を脅かさないようにしています。

ハシナガイルカは人間と一緒に泳ぎませんが、船と一緒に泳ぎます。船の舳先で海水面から見え隠れして泳ぐ大量のハシナガイルカを見ると、ジーンと涙すら出てきそう。なぜ? 大自然と一体化した感覚が涙を誘うのかもしれませんが。



ミナミハンドウイルカ接近



ミナミハンドウイルカ親子



ドルフィンスイミング



イルカウォッチングのあと  
船に回収されるのを待つ人々



ハシナガイルカ



ハシナガイルカの群れ

### 編集後記

◇9月から11月のイベントは雨で中止となることが多く、通信の内容も、差し替えてお届けすることになりました。最近の活動では、外来生き物調査・志木の生き物調査などで、志木市内や周辺を歩き回ることが大分多くなりました。NPO法人エコシティ志木の活発な活動の様子をお伝え出来たのではないかと思います。(青木明雄)

## エコシティ志木通信

第88号 2017年12月1日

〈発行〉

### NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail [eco-shiki@ff.e-mansion.com](mailto:eco-shiki@ff.e-mansion.com)